

令和 4 年度
木の国・山の国県民会議
各専門部会の取組状況

令和4年度専門部会の取組状況

部会名	森づくり部会	担当	森林経営課
部会長	篠田 成郎		整備係
構成員 (所属名)	篠田 成郎 <部会長> (岐阜大学教授) 山川 弘保 <副部会長> (林業家・郡上市民病院医師) 大西 理恵 (有限会社大原林産取締役) 久保 芳文 (岐阜森林管理署長) 河野 美佐子 (一般財団法人岐阜県地域女性団体協議会副会長) 高橋 知樹 (一般社団法人岐阜県森林施業協会副会長) 長瀬 雅彦 ((一社) 高山建設業協会理事、たかやま林業・建設業協同組合専務理事)		
今年度 計画	1 令和4年度検討事項 ・森づくりに繋がる森林空間利用の考え方・方向性について		
	2 検討事項の具体的取組 ・意見交換や現地検討会の実施		
実施 状況	3 取組状況 ※主な意見等については別添資料のとおり ■第1回(令和4年9月22日(木)) ○森林空間利用の事例発表と意見交換を実施 ■第2回(令和4年11月14日(月)) ○長期間にわたる森づくりや森林空間利用に取り組んでいる現地を見学し検討会を開催 ■第3回(令和5年1月23日(月))※オンライン併用で開催 ○森づくりに繋がる森林空間利用の考え方・方向性について意見交換を実施 ■第4回(令和5年3月6日(月))※オンライン併用で開催 ○森づくりに繋がる森林空間利用の考え方・方向性について意見交換を実施 4 取組結果 ※別添資料のとおり		
今後の 課題	5 今後の課題 ○森づくりに繋がる森林空間利用の具体化案を検討		

令和4年度森づくり部会の取組みについて(案)

令和4年度の取組み

【第1回：森林空間利用について意見交換】

- 農園と連携した森林活用の事例発表：こだらの杜（郡上市）
 - ・ 目的は地域の活性化、地域づくりへの貢献。
 - ・ 観光農園としてブルーベリーの摘み取り体験などをしながらカフェを運営。
 - ・ 地域の人達が集まる場所となり、地域の森林整備を依頼されるようになった。
- 森林経営計画を樹立し、作業道開設や搬出間伐等を実施。

まず人に来てもらうことを考え、その結果として、地域の人達が集まり、森林整備へと繋がっている。

- ### コンセプト案
- ある場所に来てももらうことにより「森をなんとかしなければならぬ」と感じる流れを作る。
 - みんなにとって心地よい場所を提供する。
 - 山を壊さない、本来の自然を使えるような方法。

長期間に渡る森づくりの取組み等の現地検討会を開催

【第2回：森づくり等の現地検討会】

- 長期間に渡る森づくりの現地や森林活用の取組みを見学
 - ・ 国有林の「赤沼田の天保林」（下呂市小坂町）
 - ・ アララギ湖周辺のリトリート・ステイの取組み（高山市久々野町）
 - ・ 岐阜大学の位山演習林（下呂市萩原町）
 - ・ 国有林の「ヒノキ・ケヤキ混交林」（高山市一之宮）

現地検討会によりイメージを共有し改めて意見交換

【第3回「森づくり部会における森林空間利用の考え方について意見交換（主な意見）

- 「こだらの杜」は森だけではなく森を含めもう少し広い視野で全体をみている。「広義の森」という考え方。
- まず最初に森づくり部会としてどのような立場（利用者、管理者、地域貢献等）から森づくりをターゲットにするかを交通整理する必要がある。
- 意見で共通しているのは「歩くこと」。山の中で何かを提供するのではなく、大自然の中を歩いてもらう。
- 歩く道として林業用の歩道をたくさん整備して人が歩きやすい道を提供する。その時に地域外の人にも入ってもらい道を作ってもらおう仕組みがあるといい。
- 山の中を歩くことで人がどんどん入ってもらえれば（人の気配を感じたり、隠れる場所が減ることなどにより）有害鳥獣は寄ってこない。
- 岐阜県の山を100ぐらい選んで、「すべてスタンプラリーで制覇したら、大垣の升をあげよう」など、県民が山へ入る取組みが必要。

森づくりに繋がる森林空間利用の考え方や方向性の整理

【第4回「森づくり部会における森林空間利用の考え方について意見交換（主な意見）

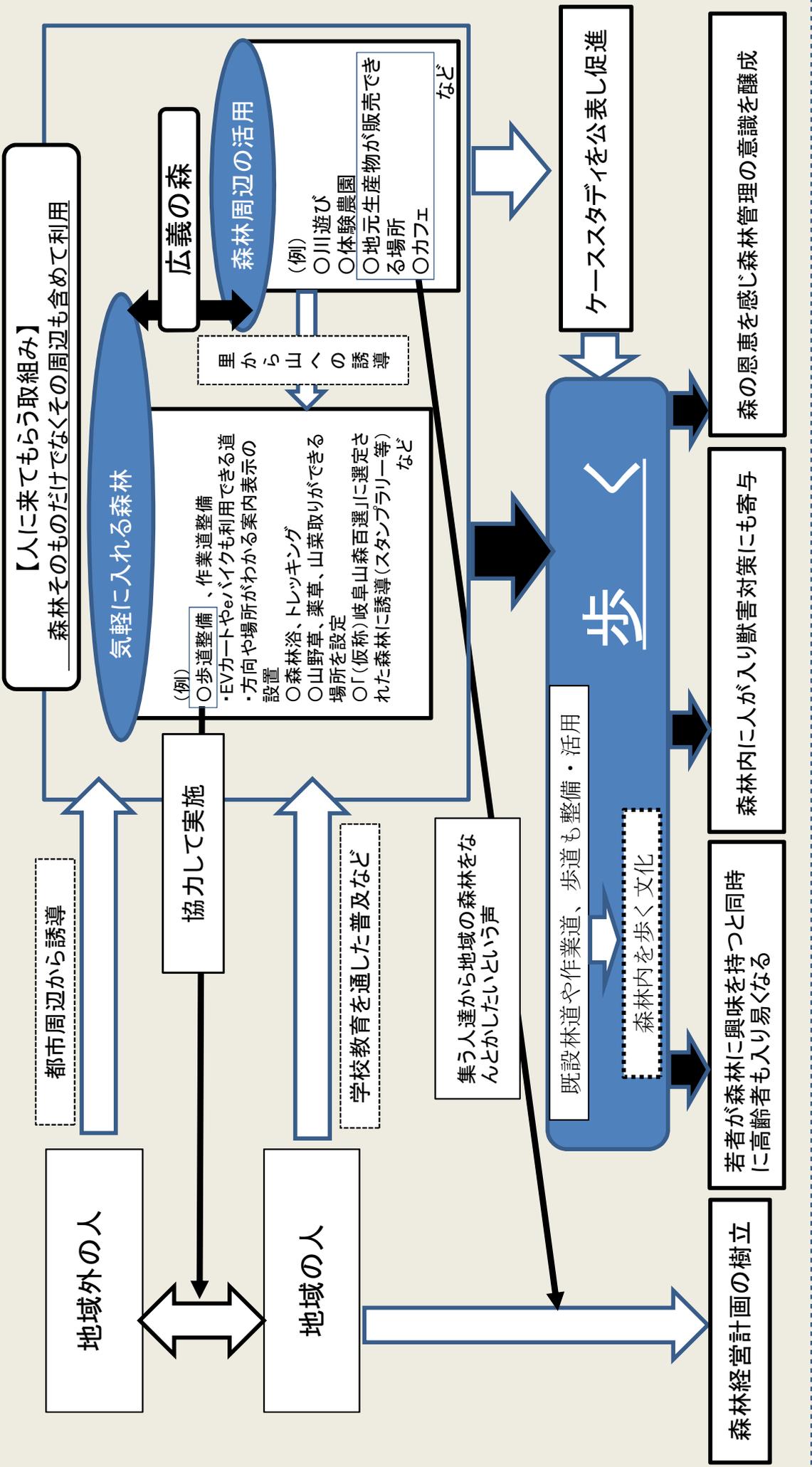
- 森林に入ってもらったためには、やはりしっかりとした作業道を作ることが必要。最近は全国的に道づくりへの関心が高まっていると感じている。
- スイスの森林には案内表示板がいたるところにある。日本もそういった取組みが必要。
- 地域の人に興味をもってもらうためには、お子づかい程度で良いので、少しでもお金に替わるものを見つけたら必要。
- 子供たちに森林への興味を持ってもらうために、小中学校等での体験を含めた教育を通して普及することは重要。
- 森を活用し、森をしっかり整備してもらい、広い視野で管理をしていく必要がある。

森林空間利用の考え方・方向性

【別紙】

森林空間利用の考え方・方向性(案)

「広義の森」の利用による地域づくりへの貢献



取り組みの結果として森林整備の促進へ

令和4年度専門部会の取組状況

部会名	木づかい部会	担当	県産材流通課
部会長	中島由紀子		木造建築推進室消費対策係
構成員 (所属名)	中島 由紀子 <部会長> (NPO法人グッドライフ・サポートセンター理事長) 桂川 麻里 <副部会長> (建築士) 石橋 明世 (ひだまりほーむ 株式会社鷺見製材 常務取締役) 岩井 香織 (公募委員) 河尻 和憲 ((一社) 岐阜県林業経営者協会 理事) 田口 房国 (株式会社山共 代表取締役社長) 田中 露美 (岐阜県生活学校連絡協議会 副会長) 山川 弘保 (林業家・郡上市民病院 医師) 吉田 香央里 (ヤマガタヤ産業株式会社 取締役)		
今年度計画	1 R4年度検討事項 ・新たな県産材の利用促進について		
	2 検討事項の具体的取組み ・木材利用に関する一層の県民理解のため、県産材製品相談窓口の設置など、木とふれあう機会の増加のための取組み等について意見をいただく。		
実施状況	3 取組状況 ■第1回 (令和4年9月27日(火)) 岐阜県全建総連厚生会館 大会議室 ※オンライン出席含む ○部会長の選任について ○「ぎふの木づかい施設」の認定について ○(仮称)ぎふ木の国・山の国県産材利用促進条例について ○令和3年度の木づかい部会からの提案等を踏まえた県産材流通課の取組みについて ○今年度の検討事項について 【主な意見】 <条例について> ・県と県民が一緒になって県産材利用を進めていくということが重要であり、県民などがどのように取り組むという位置づけが重要なのではないかと。 ・この条例が脱炭素社会の実現に資するためのものであるならば、木材の利用だけでなく、断熱材などにより住宅の性能を上げることも必要なのではないかと。 <今年度の検討事項について> ・木づかいの前提となる、「なぜ使わなければならないか」が圧倒的に認知されていないため、ゼロからの説明が必要。 ・県産材自体の性能や空間の機能性などを説明する施設や仕組みがあるとよい。		
	■第2回 (令和5年1月12日(木)) 岐阜県全建総連厚生会館 大会議室 ※オンライン出席含む ○岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例の制定と条例に係る施策の取組み状況について ○岐阜県木の国・山の国県産材利用推進計画案について ○木づかい部会の令和4～5年度の検討事項(「都市部における県産材利用の普及啓発」)について 【主な意見】 <計画案について> ・家づくりの補助金について、定額ではなく、県産材の使用量に応じた補助にすると、多くの県産材を使ってもらえるのではないかと。 ・今後工務店が非住宅の設計・施工を行っていくことは夢があると感じている。 <令和4～5年度の検討事項について> ・一般の市民向けに木づかい等を紹介することが難しく、ゲーム性を持たせるとか、イベント企画のプロの知識等が必要なのではないかと。 ・30by30(陸の30%と海の30%を保護するという考え方)やOEÇM(国立公園などの保護地区ではない地域のうち、生物多様性を効果的にかつ長期的に保全しうる地域のこと)といった切り口で県民に対し県産材利用を普及啓発してはどうか。		

	<p>4 取組結果</p> <p><条例について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者の責務や役割の位置づけや、施策等について提案等をいただいた。 <p><計画について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置づける目標や、施策等について提案等をいただいた。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産材を使用した7施設を「ぎふの木づかい施設」として認定した。 ・令和5年度の検討事項として、「都市部における県産材利用の普及啓発」を実施することとした。
<p>今後の 課題</p>	<p>5 今後の課題</p> <p>「都市部における県産材利用の普及啓発」を実施していくため、下記事項について検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段、森林や木に興味の無い都市部の県民に対する効果的な普及啓発の実施場所、実施内容や実施回数について

令和4年度専門部会の取組状況

部会名	普及・教育部会	担当	森林活用推進課
部会長	伊藤 栄一		森林サービス産業支援係
構成員 (所属名)	伊藤 栄一 (NPO 法人森のなりわい研究所代表理事) 石橋 明世 (ひだまりほーむ 株式会社鷺見製材 常務取締役) 桂川 麻里 (建築士) 加藤 正吾 (岐阜大学応用生物科学部准教授) 田中 露美 (岐阜県生活学校連絡協議会副会長) 中島 由紀子 (NPO 法人グッドライフ・サポートセンター理事長) 長瀬 雅彦 (一般社団法人高山建設業協会理事 たかやま林業・建設業協同組合専務理事) 細川 正孝 (加子母森林組合代表理事組合長) 山下 敦子 (岐阜県小中学校女性校長会長)		
今年度計画	1 令和4年度検討事項 「森林サービス産業の育成・支援」 「森林技術者の確保・育成・定着」 「ぎふ木遊館の運営状況及びプログラムについて」 「森林総合教育センター(morinos)の運営状況及びプログラムについて」 <hr/> 2 検討事項の具体的取組み ・「(仮称)森林サービス産業推進協議会」の内容について意見をいただく。 ・森林技術者の確保対策、林業労働安全対策強化に向けた取り組みの内容について意見をいただく。 ・ぎふ木遊館及び森林総合教育センター(morinos)の運営状況及びプログラムについて意見をいただく。		
実施状況	3 取組状況 ■第1回 (令和4年10月31日 (月)) 議題:「森林技術者の確保・育成・定着について」森林経営課 「(仮称)森林サービス産業推進協議会の取組みについて」森林活用推進課 【主な意見】 「森林技術者の確保・育成・定着について」 ・労働災害対策は、先進技術など他県から学べる部分があると思う。積極的に情報収集してほしい。 ・労働災害発生時のレスキュー訓練の様子を、動画で閲覧できるようにするとよい。 ・担い手確保のために、林業を知ってもらう年齢層を下げないと、就職の選択肢にならない。ぎふ木育・担い手確保の両方の視点で取り組んでいただきたい。 「(仮称)森林サービス産業推進協議会の取組みについて」 ・会員同士がwin-winの関係になるように頑張してほしい。 ・森林サービス産業そのものが明確に事業化されておらず、見えない小さい取り組みとして存在している場合もある。それらを事業化する支援をしていくべきだと思う。 ・県民会議の委員の意見を早い段階から反映できるような仕組みを作った方がよいと思った。どうやってよりよいものを作っていくか、一緒に考えていけたらよいと思う。		
	■第2回 (令和5年2月2日 (木)) 議題:「ぎふ木遊館の運営状況及びプログラムについて」ぎふ木遊館 「森林総合教育センター(morinos)の運営状況及びプログラムについて」森林文化アカデミー 「ぎふ森のある暮らし推進協議会について」森林活用推進課 【主な意見】 「ぎふ木遊館の運営状況及びプログラムについて」 ・評価の指標として、来館者数だけでなく「木遊館でやったことがどのように伝わっているのか」という部分も把握できるとよい。 「森林総合教育センター(morinos)の運営状況及びプログラムについて」 ・小学校の教員を森林教育の担い手として育てるのは難しいため、morinosがあることを知っていただき、活用することを選択する教員を増やしていくのが大事。 「ぎふ森のある暮らし推進協議会について」 ・協議会の方向性として、産業形成だけではなく、森林とともに暮らす文化を形成する事が産業の土台になると思うので、工夫していく必要がある。		

<p>実 施 状 況</p>	<p>4 取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森林技術者の確保・育成・定着」について、課題点を整理した。 ・「ぎふ森のある暮らし推進協議会」への提案を行った。 ・ぎふ木遊館及び森林総合教育センター(morinos)の今後の展開について、提案を行った。
<p>今 後 の 課 題</p>	<p>5 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林技術者の労働災害対策の強化 ・ぎふ森のある暮らし推進協議会における、会員同士の意見の目ざろえと、協力体制の構築 ・ぎふ木遊館の取り組みをより明確に把握できる評価手法の検討